

U.S. Indicators

米国 悪天候や好調だった年末商戦の反動等により失速(18年1月小売売上高)

公表日：2018年2月14日(水)

～コア小売の拡大モメンタムは好調維持～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)		
	小売	飲食	サービス	除く車	自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン	
17/01	+1.2	(+5.9)	+1.6	+0.7	▲0.3	+2.1	+1.4	+1.3	+0.6	+1.9
17/02	▲0.5	(+4.7)	▲0.1	▲1.0	▲2.0	▲0.0	▲1.6	▲0.2	▲2.7	+0.8
17/03	+0.1	(+4.8)	+0.3	▲0.5	▲0.5	+1.7	+2.8	+0.4	+2.0	▲1.0
17/04	+0.3	(+4.5)	+0.3	+0.4	+0.5	▲0.5	+1.8	+0.4	+0.2	▲0.5
17/05	+0.0	(+4.2)	▲0.2	+0.7	+1.1	+1.0	▲1.5	▲0.4	▲0.0	▲3.1
17/06	▲0.1	(+3.0)	▲0.2	+0.4	+0.4	+0.5	▲1.2	▲0.4	+0.7	▲1.4
17/07	+0.5	(+3.7)	+0.5	+0.4	+0.3	▲0.5	▲1.6	+0.6	+0.3	▲0.5
17/08	▲0.1	(+3.5)	+0.5	▲1.2	▲2.0	+0.5	+0.7	+0.5	▲0.4	+3.4
17/09	+2.0	(+5.0)	+1.3	+4.0	+4.8	+0.9	+1.4	+1.4	+0.5	+6.0
17/10	+0.7	(+5.0)	+0.5	+1.1	+1.4	+2.0	+1.4	+0.5	+0.9	+0.2
17/11	+0.8	(+5.9)	+1.2	▲0.6	▲1.0	+0.5	+1.2	+1.6	+0.6	+3.4
17/12	+0.0	(+5.2)	+0.1	▲0.1	▲0.1	▲1.1	▲2.0	▲0.1	▲1.2	+0.3
18/01	▲0.3	(+3.6)	▲0.0	▲1.4	▲1.3	▲0.4	+0.5	+0.3	+1.2	+1.6

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(末季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

1月の小売・飲食サービス売上高は、前月比▲0.3%と失速

18年1月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比▲0.3%(前月同+0.0%)と市場予想中央値の同+0.2%に反して失速したうえ、11、12月合計で0.5%p下方改定された。ただし、暴風雪など悪天候のほか、ガソリン価格の上昇による負担増、復旧・復興需要などにより昨年末にかけて高い伸びとなった反動の影響を背景とした落ち込みであり、基調の変化を示すものではない。雇用・所得環境が良好なもと、資産効果等を背景に、小売売上高の基調は堅調さを維持していると判断される。

内訳をみると、家電、衣料品、その他小売が増加に転じたうえ、ガソリンスタンドが加速した。一方、建設資材が減少に転じたほか、自動車・同部品、薬局が減少幅を拡大した。また、家具、スポーツ用品・本・趣味用品が減少を続けた。さらに、悪天候により飲食店、好調だった年末商戦の反動で通信販売、百貨店など一般小売、食品・飲料が鈍化した。

1月の小売・飲食サービス売上高では、自動車、建設資材が大幅な押し下げ要因

1月の小売売上高の前月比(▲0.26%)の寄与度をみると、プラス寄与の業態では、ガソリンスタンドが+0.13%と最大の押し上げ寄与となった。衣料品が+0.06%、その他小売りが+0.04%、百貨店を含む一般小売が+0.02%、家電が+0.01%と続いた。一方、マイナス寄与の業態は、自動車・同部品が▲0.26%、建設資材が▲0.16%、薬局が▲0.07%、家具が▲0.01%、スポーツ用品・本・趣味用品が▲0.01%となった。なお、食品・飲料、通信販売、飲食店は0.00%となった。

1月の自動車を除く小売売上高は前月比▲0.0%と減速

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比▲0.0%（前月同0.1%）と鈍化し、市場予想中央値の同+0.5%を下回ったうえ、11、12月合計で0.3%p下方改定された。家電、衣料品、その他小売が増加に転じたうえ、ガソリンスタンドが加速した。一方、建設資材が減少に転じたほか、薬局が減少幅を拡大した。また、家具、スポーツ用品・本・趣味用品が減少を続けた。さらに、悪天候により飲食店、好調だった年末商戦の反動で通信販売、百貨店など一般小売、食品・飲料が鈍化した。

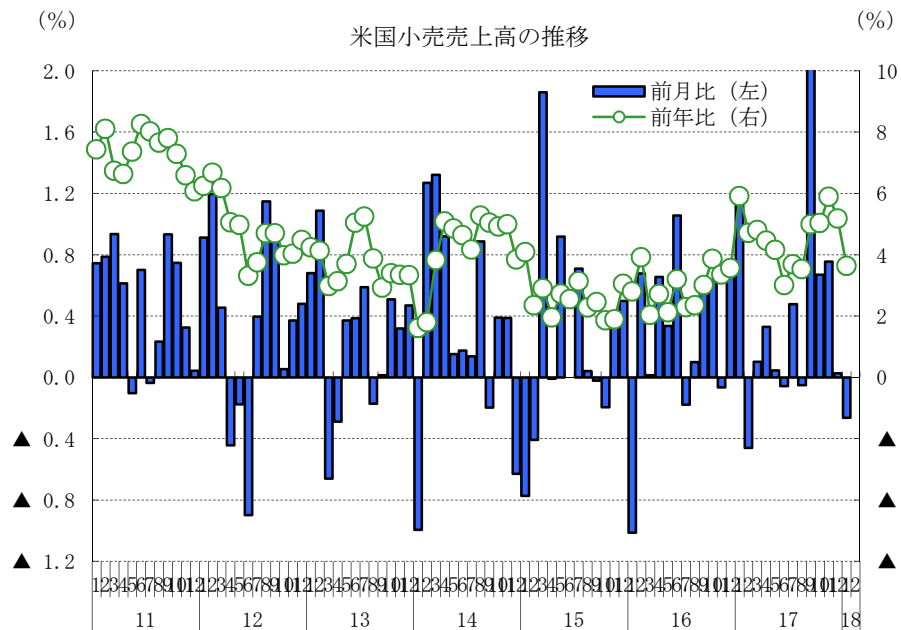
1月のコア小売売上高は前月比で+0.0%と減速も、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+7.0%と高い伸びを維持

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+0.0%（前月同+0.0%）にとどまったうえ、11、12月合計で0.5%p下方改定された。家電、衣料品、その他小売が増加に転じた一方、薬局が減少幅を拡大したほか、家具、スポーツ用品・本・趣味用品が減少を続けた。また、悪天候により飲食店、好調だった年末商戦の反動で通信販売、百貨店など一般小売、食品・飲料が鈍化した。

3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+7.0%（前月+7.2%）と高い伸びを維持した。全米での雇用・所得の増加傾向、株等の資産価格の上昇、消費者マインドの安定など、消費を取り巻く環境は良好な状態を続けた。このような中、復旧・復興需要などもあり、小売の基調を示すコア小売売上高の拡大モメンタムは強い。

1月のコア小売は+1.5%と前期の前期比年率+7.2%の高い伸びの反動等により鈍化した

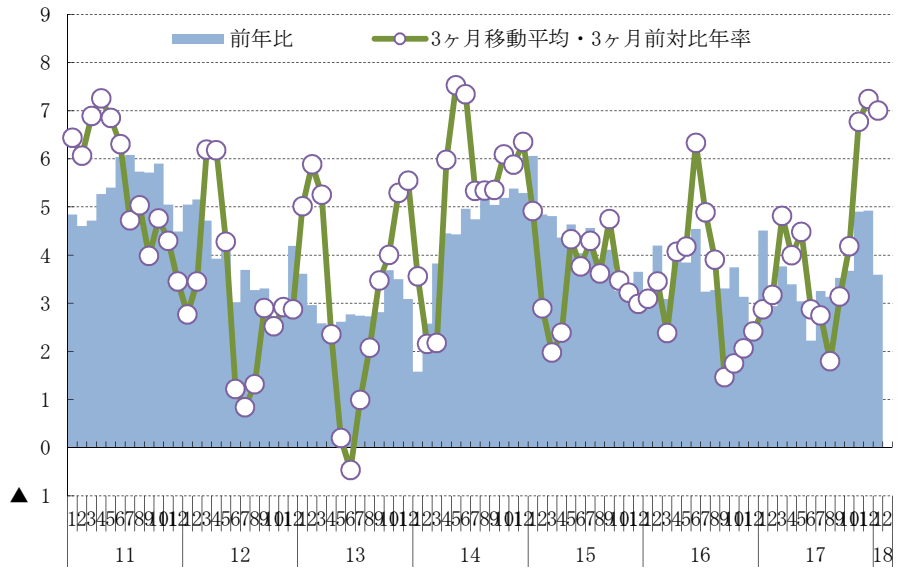
四半期でみると、1月のコア小売売上高は10-12月期対比年率+1.5%と10-12月期の前期比年率+7.2%から大幅に鈍化した。前期の大幅な伸びの後にもかかわらず拡大基調を維持した。また、2、3月は、良好な雇用環境の継続、エネルギー価格の落ち着き、減税の開始等もあり、コア小売売上高は拡大すると見込まれる。以上などを考慮すると、1-3月期の実質個人消費は前期比年率+2%台後半（10-12月期同+3.8%）に減速するものの、堅調さを維持すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

(%)

(図表) 米国コア小売売上高の推移



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。